

サイ オーガニゼーションからのメッセージ

2011年4月、サイ ババ様が肉体を離れられた後、サイ ババ様によって設立されたサティヤ サイ オーガニゼーションとは別の団体であるムッデナハッリのグループが、ある男性を通して微細体のサイ ババ様が御講話を行っているなどとして独自の活動を始めました。このことに関して、SSIO (サティヤ サイ国際オーガニゼーション)はアニル クマル カマラージュ教授、ナーガーナンド氏、 サティヤジット サリアン氏、サティヤ サイ国際オーガニゼーション会長 ナレーンドラナート レッディ博士、ヴェーダナーラーヤン先生、アジットパポット氏、シュリーニヴァーサン前 SSO 全インド会長などによるメッセージを発信し、その非真性を訴えてまいりました。

サイ ババ様ご自身も、このような介在行為に対して、次のように注意喚起をされています。

私が誰かのところに「降りて来て」、その人を通して話をしている、と言っている人たちがいます！ 彼らは、私の代弁者を装って、あたかも私が彼らを「公認」したかのように、あるいは、あたかも私自身が彼らを通して話しているかのように、人々に私の助言や私の提案を伝えています。これから言うことをよく聞きなさい。私は決して誰かを通して話をすることはありません。私は決して誰かに乗り移ったり、表現の媒体として誰かを使うことはありません。私は直接行きます。私はじかに行きます。私は私のまま行きます。

これは1965年3月27日の御講話ですが、サイ ババ様は表現の媒体として、決して第三者を使うことはないことを明言されています。

何を信じるかは個人の自由です。しかし、サイ オーガニゼーションに集う以上、サイ ババ様の御教えを守り、しっかりと内なる神の顕現にむかって一意専心することが大切ではないでしょうか？

フィリス クリスタル女史のように、当初はムッデナハッリに惹かれた方もいらっしゃいました。しかしフィリス クリスタル女史は、自分の間違いに気づき、ムッデナハッリの活動と縁を切られたことはご承知の通りです。また、ムッデナハッリの実態を知り多額の寄付をしたことを後悔しているアジット ポパット氏のような方もいらっしゃいます。

サイ ババ様が肉体を去られた後、このような事態が生じたのは偶然ではないのでしょうか。私たちが何を抛り所に生きるべきか、それを一人一人に問いかけられているように思われます。どうぞ、識別心をもって正しいご判断をされますことを心からお祈りいたします。みんな幸せになりますように！ そしてすべての人が一つになりますように！